

「良いものを守る」

～御言葉と聖霊に生きる！！～

Ⅱ テモテ 1 : 6 ~ 14

■ 私たちの周りにある法則とは

私たちの世界には法則がたくさんあります。地球の中心にひきつける力である“重力”。水などに浮く力である“浮力”。その法則に対して反発する力を使ってバランスを取っているものもあります。飛行機はこの重力と機体を上に上げる揚力というものと推進力と抗力の4つのバランスによって飛んでいます。重力の法則に反してパラシュートやハングライダーなどを使えば浮いたり、飛んだりすることができるように、私たちもこの世の当たり前の法則から抜け出すことができます。また私たちの世界には時代によって様々なルールがあります。イエスキリストがこの地上にいた頃は祭司や律法学者たちは伝承律法というものがあ、旧約聖書以外にも様々なルールを作っていました。イエスキリストはそのルールをことごとく壊していききました。私たちも教会に来た時、今まで生きてきたルールは間違っているのではないかと疑問をもつことになりました。それはなぜでしょうか。神様は今までの生き方ではこの世の法則に従い自分に傷を負うような法則の中で生きるのではなく、新しい法則で傷つかないような生き方をしてほしいと願っているからです。ですからタイトルとしてこのような言い方もできます。「あなたはどちらの法則で生きますか？～罪と死？命と御霊？～これはローマ書全体に書かれているテーマのようなものです。

■ 私たちの法則を壊しましょう。

私たちは職場、家庭など置かれた場所で花を開かせるために教会に来ているのです。つばみのままでいてはいけません。例えばその場所が嫌だと感じる場所だとしても私たちがそこに存在する意味があるのです。私たちは逃げてはいけません。逃げた後、そこに残された人もいるということを考えなければなりません。ですから私たちは神様がそこに遣わしているということを確信して歩んでいきたいと思います。私たちはそこで何をすれば良いのでしょうか。それは私たちに与えられている良いものを御霊によって守り保つようにしているのです。私たちに与えられている良いものをこの世の法則は壊していききます。私はダメと周りの比較によって劣等感を感じさせていきます。しかし私たちは周りの人と同じように造られたものではありません。ですから考え方、感じ方など全く違うのです。この世の法則では私たちの個性などは消されていくのです。神様はそういうように創造したのではなく、命と御霊による新しい法則にて歩んでいきたいと思います。

■ 士師サムソンは・・・

士師であるサムソンはナジル人でした。ナジル人とは神様に誓願を立てた人のことです。それは神様の前に潔くいきることを誓った人のことをさしています。しかしサムソンは自分の欲によって潔く生きることができませんでした。敵であるペリシテ人の遊女に溺れてしまった故に、サムソンは髪を剃られナジル人の誓願が破られ、神の力を失ってしまいました。そして敵に捕まり辱めを受けることになりました。しかしサムソンはそのような中で神に悔い改めてペリシテ人の前で神の力を取り戻し、役目を果たしながら召されていきました。私たちの人生においてもこのように神様から大事にしなければならぬことを敵に誘惑され、捨ててしまう可能性があります。2番目のものが1番目を狙っているようなものです。これはこの世の法則です。私たちはいつも注意しなければなりません。私たちは大事なものは「オンリーワン」にしないで「ナンバーワン」のような比較対象にしてしまうのです。これが罠です。私たちは他人と比べ、そして自分の過去と比較していくことは止めましょう。

■ 私たちには役割があります。

私たちには神様から与えられている役割があります。しかしそれを阻止する敵もいるのです。妥協させたり、忘れさせたり、誘惑したりするのです。私たちは置かれた場所から逃げないようにしましょう。それは私たちでしか、できないことがあるからです。私たちにとって役割を果たせなくすることの中に「人のせい」というものがあります。自らを省みることなく、周りに責任を押し付けているのです。そうならないために私たちの内側が強くなり、主にあって熱くならなければなりません。「神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊

です。(Ⅱテモ1:7) 私たちは役割を果たしていくために、悪い状況に陥りそうになった時こそ、神様から与えられた力と愛と慎みの霊によって戦い、感情的な行動に打ち勝たなければいけません。

■ 大切なものを奪う2番目のもの

私たちは1番大切なものを守っていかなくてははいけません。そのために2番目のものを壊さなくてははいけません。1番大切なものは2番目と対比させるものではありません。それは別格です。同じ土俵に上がらせないようにしなければいけないのです。私たちにとって大事なものの神様の愛、自分の目的をしっかりと持ち保っていきましょう。

■ 感謝が当たり前になるとき

私たちにとって感謝であったことが今は感謝ではなく、当たり前になってしまうことがあります。全世界を見渡すと私たちの中にある不満は不満でなくなってくると思います。子どもの絵本に「ぼくがラーメンを食べた時」というものがあります。私たちが生活している時間、同じように生活している世界の子どもたちがどのようにしているのかということを表しています。その中には働いている子どもが描かれていたり、倒れてしまった子どもも描かれています。私たちは日々、求めるだけになっていないでしょうか。そして自分が満たされた時、隣には満たされない人もいるかもしれないということを考えなくてははいけません。日本では教会に自由に入出入りできます。世界には教会に入出入りするにも命がけという国もあるのです。私たちは感謝を見つけていきたいと思います。そして当たり前にならないようにしましょう。

■ 頑な、プライドが出たとき！！ 偽りが隠されている

私たちはプライドが出てくると素直に間違いを認めることができなくなります。自分の間違いに素直に認められなくなったら自分を偽ることになります。その時には自分の良いところが輝くことなどありません。神様は私たちに与えている良いものを保ちなさいと命令しているのです。私たちがイエス様の御丈にまで成長することを言われていますが、それを達することは難しいと思います。しかしイエス様の一部分であれば、近づくことができるのではないかと思います。そのためにも私たちが偽ったままでは成し遂げることができません。私たちが1つとなってイエス様を表す共同体です。一人ひとりが自分の役目を果たさなければ成り立たないのです。私たちの中にある良いものを保ちましょう。気をつけなければならぬのが、私たちの感情です。この感情が感情的になり暴走すると良いものを壊していききます。この感情的な状況になると、頑なさやプライドが出てくるのです。私たちは偽りの心で正しいことはできません。

御言葉 聖霊に生きる！！

私たちにとって大事なことは御言葉に帰ることです。聖書には私たちが間違った行動をしないようにする言葉で満ちています。そして聖霊は私たちの心に語りかけて正しい判断ができるようにしてくれているのです。御言葉は私たちの感情をコントロールしてくれくれます。聖霊は私たちの心に力を与えてくれます。ですから罪と死の力によって生きているのではなく命と御霊の力によって歩んでいきたいと思います。御言葉を読み、心に蓄えて、聖霊が心に語りかけてくれる声に従い仲良く歩んでいけるようにしましょう。

(要約者:平澤 一浩)